



当科の現状

最近の取り組みを中心に

循環器内科代表部長
中野 明彦

薬剤治療や侵襲的治療器具の進歩により、多くの循環器疾患患者さんは自宅近くの病院で標準的な治療を受けられるようになってきました。

裏を返せば、循環器領域では病院の差別化が図りにくい時代になったとも言えるかも知れません。そんな中、当科では、「患者中心の医療」

を目指すべく“5S”（安全性；Safety・迅速性；Speedy・系統性；Systematic・洗練された医療；Sophisticated・近隣社会への貢献；Social responsibility）のスローガンを掲げ、質の向上に努めています。

まずは今回もルーチンの数字から…

	外来新患（紹介患者数；紹介率）	入院新患（紹介患者数；紹介率）	入院・外来逆紹介数（率）
2009年度	788（317；40.2%）	975（246；25.2%）	843（47.8%）
2010年度	905（384；42.4%）	762（229；30.1%）	782（46.9%）
2011年度	1165（533；45.7%）	1239（442；35.7%）	1034（43.0%）
2012年度	1323（417；31.5%）	1292（463；35.8%）	1147（43.9%）
2013年度	1319（434；32.9%）	1220（475；38.9%）	1071（42.2%）
2014年度	1098（496；45.2%）	1192（521；43.7%）	1102（48.1%）
2015年度	1083（462；42.7%）	1108（429；38.7%）	1052（48.0%）

	カテーテル総数（検査・治療）	カテーテル治療総数	PCI成功率
2009年度	623	208	-
2010年度	467	144	-
2011年度	989	400	97.1%
2012年度	1046	448	97.5%
2013年度	996	442	97.0%
2014年度	978	442	97.7%
2015年度	880	386	96.8%

侵襲的検査・治療の多い循環器医療における“Safety”、救急医療に代表される“Speedy”、患者さんを横断的・縦断的に“線”や“面”でケアする“Systematic”な医療を引き続き心に刻み日々の診療を行っております。また独りよがりになることなく、患者さんのさまざまな背景・価値観を尊重しつつ、より確率の高い医療（“Sophisticated”）の選択；EBM（evidence-based medicine）とtailor-madeの融合が重要である事も繰り返しこの項で

強調させて頂いております。

ルーチンの数字は2012年度をピークに減少しています。「数は(実)力なり」という論調がありますが、症例数が減少しても「実力」を落とさないように頑張らないといけません。当科で力点を置いている各論をご紹介します。

第一は非侵襲的診断、特に**心臓超音波検査（心エコー）**の充実です。言うまでもなく心臓は動く臓器で、その異常や変動を血液検査や画像診断で捕らえきる事は困難です。また病態も経時的に

変化します。そのダイナミズムをリアルタイムに診断するための最も重要なツールが心エコーです。5年前から群大附属病院心エコーグループのバックアップをいただき臨床検査技師さん達のスキルアップを図って参りましたが、2014年8月同グループより館野利絵子先生が赴任されました。当然の事ながら、その質は格段に向上しました。一昨年末からは「**外来ダイレクト心エコー**」を開始、“ちょっとした”心雑音、“ちょっとした”心電図異常、“確信のもてない”胸部症状など、外来への受診なしに気軽に心エコー検査を受けて頂けるようになりました。

第二は「**透析患者さんの循環器診療**」。当院透析センターの患者さんはもとより、いくつかの透析施設とタイアップしており、潜在症例は600~700名に及びます。末期腎臓病である透析症例は、同時に非常に進行した動脈硬化症患者であり、死因の半数以上は心血管疾患です。PCIにおける透析症例の比率は昨年度も27%を占め、通常施設の5~6倍でした。3年前よりこの状況を活かし、100分の1mmまで観察可能なOCT（光干渉断層法）を用いて、虚血性心疾患を合併する透

析症例の冠動脈硬化・ステント後の内膜変化の研究を開始しました。130例を超す解析症例数は国内にも例がなく、若い先生方が国内外の学会等で研究結成果を報告してくれています。最近では土屋寛子先生のcase reportがEuropean Heart Journalに掲載されました。

第三が「**Social responsibility**」。当科単独ではありませんが、医師・医療スタッフを中心とした市民向けのBLS講習会を院内外で行っています。その対象は心臓疾患患者の家族、他院医療スタッフ、小中高生など多彩です。

そして最後に宣伝を一つ。私、15年以上前から「**循環器トライアルデータベース**」というサイトに参加させて頂いております。内外のエビデンスを1500以上積み重ねた循環器領域では国内最大のトライアル集です。専門外の先生方には馴染みにくいかも知れませんが、現在の循環器領域のup to dateが満載ですので、ご参照いただければ幸いです。

表の数字には出にくい活動が多いですが、今後とも足下を見据えつつ歩を進めたいと思っております。今後ともご指導をよろしくお願い致します。

